

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

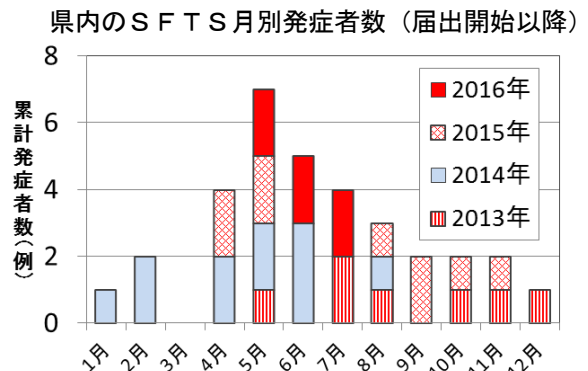
宮崎県第30週の発生動向

トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** (全数報告の感染症) の報告が宮崎市保健所から1例あった。県内での報告は今年6例目で、累計33例(平成25年3月届出開始以降)となった。患者は60歳代男性で、発症は7月下旬であった。ダニの刺し口があり、海外渡航歴はなかった。

県内のSFTS年齢別報告数(届出開始以降)

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	10	9	9	1



全数報告の感染症 (30週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核5例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症1例。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例。
- 5類感染症：ウイルス性肝炎1例、後天性免疫不全症候群1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	女	肺結核	血痰
			80歳代	男	結核性胸膜炎	咳、発熱、呼吸困難
		延岡	80歳代	男	結核性胸膜炎	呼吸困難
		小林	80歳代	男	肺結核	咳、痰
3類	腸管出血性大腸菌感染症	小林	30歳代	男	無症状病原体保有者	O1(VT1産生)
					高鍋	80歳代
4類	重症熱性血小板減少症候群	宮崎市	60歳代	男	—	発熱、食欲不振、血小板減少、刺し口
5類	ウイルス性肝炎	宮崎市	30歳代	男	B型	肝機能異常、黄疸、右腰部痛
	後天性免疫不全症候群	宮崎市	30歳代	男	AIDS	呼吸不全 指標疾患：ニューモシスティス肺炎

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は681人(定点当たり21.8)で、前週比104%とほぼ横ばいであった。前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は水痘と伝染性紅斑であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

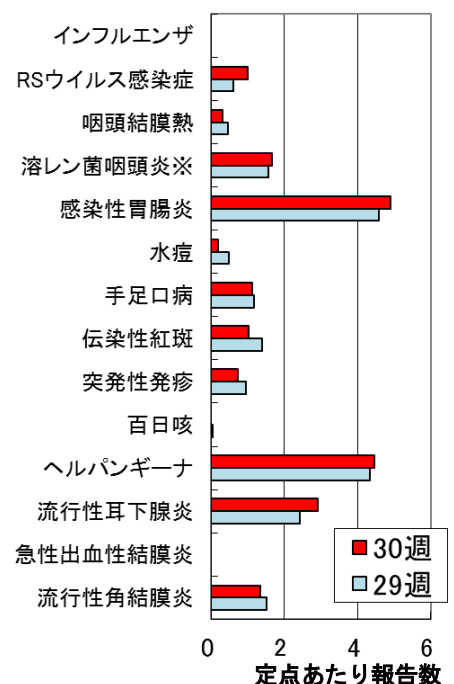
【ヘルパンギーナ】

報告数は160人(4.4)で、前週比103%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(5.3)の約0.8倍であった。日南(15.0)、都城(7.7)、高千穂(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1~2歳が全体の約7割を占めた。

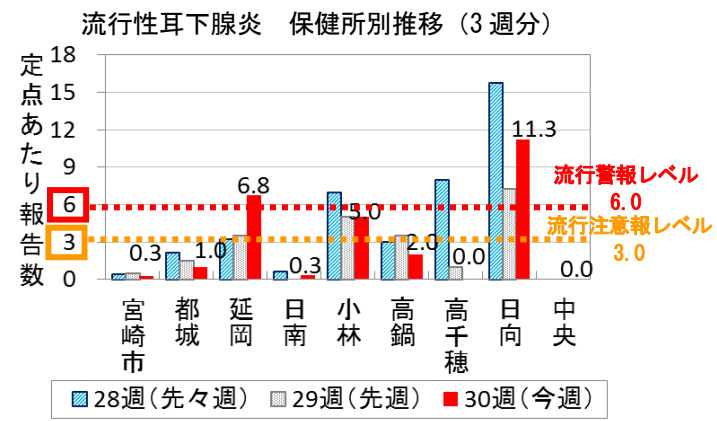
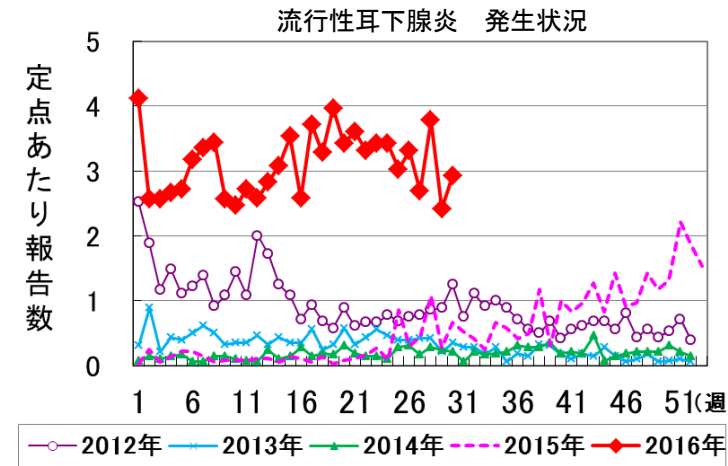
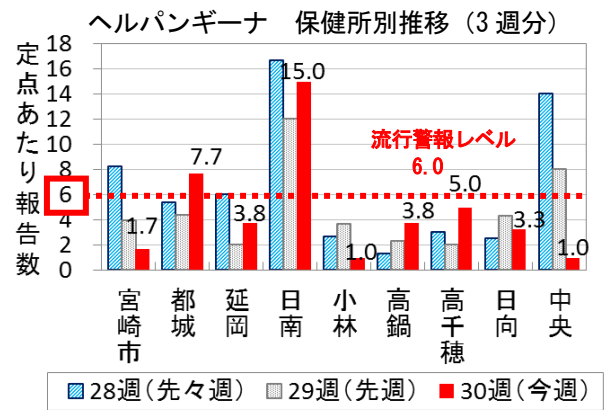
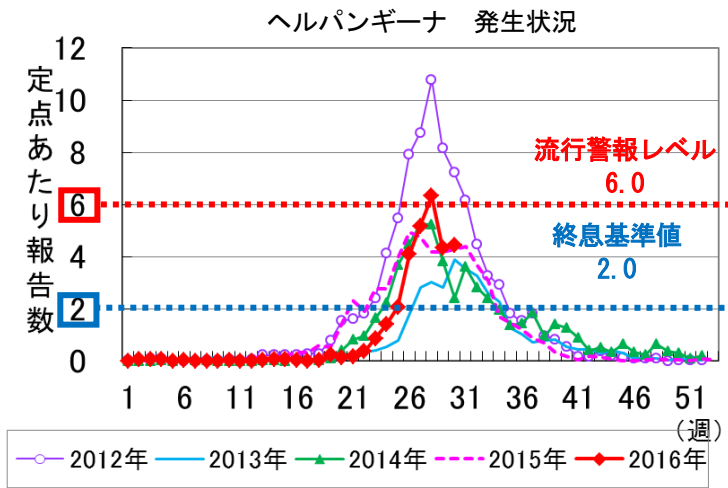
【流行性耳下腺炎】

報告数は105人(2.9)で、前週比121%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.78)の約3.7倍であった。日向(11.3)、延岡(6.8)、小林(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では4~5歳が全体の約4割を占めた。 * 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市(8例)、高鍋(5例)、延岡、日向(各1例)保健所から報告があった。
0～4歳が3例、5～9歳が7例、10歳代が5例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	ヘルパンギーナ(7.7)
延岡	流行性耳下腺炎(6.8)
日南	ヘルパンギーナ(15.0)
小林	伝染性紅斑(3.0)、流行性耳下腺炎(5.0)
高鍋	伝染性紅斑(3.3)
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(11.3)
中央	なし

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年8月1日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	10歳代	男	2016.7.11	発熱(39.0℃)、胃腸炎(出血性下痢、腹痛、嘔気、嘔吐)	便	2016.7.19
EPEC (OUT:HUT)	-	女	2016.7.11	-	便	2016.7.20
EPEC (OUT:HUT)	10歳代	女	2016.7.12	-	便	2016.7.20
<i>Salmonella</i> Newport(O8(O6):e,h:1,2)	60歳代	女	2016.7.13	-	便	2016.7.22
<i>Salmonella</i> Saintpaul (O4:e,h:1,2)	10歳代	男	2016.7.14	胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2016.7.22

○2名の患者から腸管病原性大腸菌(EPEC)が分離された。EPECの判定基準は *eae* (インチミン遺伝子) 陽性の大腸菌で、ST/LT/VTを持たない大腸菌とされている。今年度は、7名からEPECが検出されているが、そのいずれもがOUT(UTは untypable の略)で市販の抗血清では血清型別出来なかった。血清型別を確定することは疫学的にも重要なため、今後はPCR法によるOg型(O-genotype)の型別も含め検討していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	女	2016.06.09	エンテロウイルス感染症(ヘルパンギーナ)、咽頭炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.07.25
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	女	2016.06.24	新生児発熱、39℃、無呼吸	便 咽頭ぬぐい液	2016.07.25
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2016.06.28	気管支炎、39.3℃	咽頭ぬぐい液	2016.07.28
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2016.07.21	集団かぜ、39.9℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.07.28
エコーウイルス25型	0～4歳	女	2016.06.28	不明の発疹症、38.0℃、紅斑	咽頭ぬぐい液	2016.07.25
エコーウイルス25型	0～4歳	男	2016.06.29	ウイルス感染症、40.1℃	咽頭ぬぐい液	2016.08.01
パラインフルエンザウイルス1型	5～9歳	女	2016.07.02	ADEM疑い、38.0℃、下気道炎、四肢のビリビリ感	咽頭ぬぐい液	2016.07.28
パラインフルエンザウイルス1型	0～4歳	男	2016.07.22	家族内感染力濃厚の夏かぜ、39.6℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.07.28
RSウイルス	90歳代	女	2016.07.06	不明熱、39.2℃	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	70歳代	女	2016.07.06	不明熱、38.1℃	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	90歳代	男	2016.07.06	不明熱、38.9℃	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	70歳代	女	2016.07.06	不明熱、38.3℃	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	70歳代	女	2016.07.20	40.1℃、咳嗽、痰	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	90歳代	女	2016.07.20	37.8℃、咳嗽、痰	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	80歳代	女	2016.07.20	39.0℃、咳嗽、痰、SpO2低下	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	80歳代	男	2016.07.20	38.6℃、咳嗽、痰、SpO2低下	咽頭ぬぐい液	2016.07.26
RSウイルス	0～4歳	男	2016.07.24	細気管支炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.07.28

○発熱を呈する高齢者8名、細気管支炎と診断された乳児1名から、RSウイルスが検出された。RSウイルスはすべての年齢層で上気道炎や下気道炎を引き起こす代表的な呼吸器ウイルスであり、乳幼児だけでなく、慢性呼吸器・心疾患を合併する高齢者でも下気道感染を引き起こし、重症化の原因となる。近年、高齢者施設などでの集団発生の原因にRSウイルス感染の関与が指摘されており、高齢者でのRSウイルス感染症はインフルエンザと同様の高い致命率をもたらすことが示唆されているため、高齢者におけるRSウイルス感染にも注意が必要となる。

○上気道炎と診断された幼児1名、下気道炎と診断された幼児1名からパラインフルエンザウイルス1型が検出された。また、気管支炎と診断された幼児2名からパラインフルエンザウイルス3型が検出された。パラインフルエンザウイルスは小児における肺炎、細気管支炎などの下気道炎の起因となるウイルスとしては、RSウイルスについて多くなっている。免疫機能が確立されていない乳幼児が感染し重症化すると、細気管支炎、肺炎などを起こすことがあるため、乳幼児と接触する可能性がある場合は手洗い等をしっかり行うなど予防対策が必要である。

🇯🇵 全国 2016 年第 29 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 29 週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	326 例			
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	92 例	
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	5 例	つつが虫病 2 例
	デング熱	4 例	日本紅斑熱	5 例	マラリア 1 例
	レジオネラ症	31 例			
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 17 例
	急性脳炎	4 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 8 例
	後天性免疫不全症候群	11 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 6 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	16 例	水痘（入院例） 3 例
	梅毒	51 例	播種性クリプトコックス症	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例
	風しん	2 例	麻しん	1 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症 2 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 84%と減少した。前週と比較して増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎であった。

流行性耳下腺炎の報告数は3,840人(1.2)で前週比96%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(0.54)の約2.3倍であった。新潟県(3.2)、佐賀県(2.5)、宮崎県(2.4)からの報告が多く、年齢別では4～6歳が全体の約半数を占めた。 * 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第30週(7月25日～7月31日)

疾病名		第29週	第30週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	22	36	13	2	3	2		15		1	
	定点あたり	0.61	1.00	1.30	0.33	0.75	0.67	0.00	3.75	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	16	11			3	7	1				
	定点あたり	0.44	0.31	0.00	0.00	0.75	2.33	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	56	60	10	7	8	9	2	7		13	4
	定点あたり	1.56	1.67	1.00	1.17	2.00	3.00	0.67	1.75	0.00	3.25	4.00
感染性胃腸炎	報告数	165	176	44	28	5	21	29	12		32	5
	定点あたり	4.58	4.89	4.40	4.67	1.25	7.00	9.67	3.00	0.00	8.00	5.00
水痘	報告数	17	7	4		3						
	定点あたり	0.47	0.19	0.40	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	42	40	4	4	12	6	3		1	10	
	定点あたり	1.17	1.11	0.40	0.67	3.00	2.00	1.00	0.00	1.00	2.50	0.00
伝染性紅斑	報告数	50	37	9	2	2	1	9	13		1	
	定点あたり	1.39	1.03	0.90	0.33	0.50	0.33	3.00	3.25	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	34	26	8	2	5	3	2	5		1	
	定点あたり	0.94	0.72	0.80	0.33	1.25	1.00	0.67	1.25	0.00	0.25	0.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	156	160	17	46	15	45	3	15	5	13	1
	定点あたり	4.33	4.44	1.70	7.67	3.75	15.00	1.00	3.75	5.00	3.25	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	87	105	3	6	27	1	15	8		45	
	定点あたり	2.42	2.92	0.30	1.00	6.75	0.33	5.00	2.00	0.00	11.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	9	8	7	1							
	定点あたり	1.50	1.33	2.33	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	9	15	8		1			5		1	
	定点あたり	1.29	2.14	8.00	0.00	1.00	0.00	0.00	5.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～30週)

2類感染症	結核	119例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10例(1)				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	6例(1)
	つつが虫病	6例	日本紅斑熱	3例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	2例(1)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例
	急性脳炎	8例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	3例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	1例				

()内は今週届出分、再掲